

自然環境に配慮したシカ対策 ～シカネット回収から再生利用～

林野庁 業務課 供給係長 ○増井 琴羽
(元 宮崎森林管理署都城支署)
九州森林管理局 技術普及課 緑の普及係長 坂本 徹也
(元 宮崎森林管理署都城支署)

1 課題を取り上げた背景

街中や海でのプラスチックごみの問題がメディアで頻繁に取り上げられている中、国有林においては約20年前から設置が始まったシカネットや支柱などはプラスチック素材で構成されており、海洋プラスチック問題と同じように、山林プラスチック問題となる懸念があります。

将来的に山がプラスチックゴミの発生源とならないために、近年関心の高まる持続可能な開発目標 (SDGs) の観点から、役目を終えたシカネットの回収、自然素材の検討、資材の再生利用に取り組みました。

2 取組の経過

- (1) シカネットの回収
- (2) 再生利用の検討
- (3) 自然素材への代替の検討

3 実行結果

- (1) シカネットの回収

道沿い等の好条件地については、シカネットメーカー協力のもと林業機械による回収試験を実施、急傾斜地等の悪条件地については、無人航



(写真1：林業機械による回収状況)

空機による回収に向けて現地検討を実施したが、成林した造林地上空では安全に資材を吊り上げられないと判断し断念しました。

- (2) 再生利用の検討

回収したシカネットでエコバッグを試作し、地元の普通科高校にPRしました。森林・林業に関心を持ってもらうきっかけとし、サステナブル意識の高い人々にも親和性の高い取組となると考えます。



(写真2：チラシを作成してPR)

- (3) 自然素材への代替の検討

山に自生する竹を活用し、シカネット破損箇所の補修を行いました。3試験地で6ヶ月観察し、シカ侵入防止に一定の効果があることを確認できました。

4 考察

シカネットは植栽後の食害防止のほか成林後も樹皮剥離を防ぐ効果が期待されますが、現場の状況によっては回収も選択肢のひとつです。

また、施業の計画段階では、回収を前提とした伐区設定や植栽配置の検討、あるいは回収しなくても良い資材の活用へのシフトも必要と考えます。

あわせて資材の再生利用に向けた提案を進めていくことで、林業関係者以外の関心を引き、さらには街中からの需要が生まれる可能性も秘めています。日常の業務に追われると、伐ること、植えること自体に集中してしまいがちですが、地域と情報交換しながら将来に繋げる森林づくりのプランを描き、その実現に向けて少しずつでも行動することで、自然環境に配慮した「伐って・使って・植えて・育てる」森林の循環利用に貢献できるものと考えます。